

課題解決型研究プログラム 資源循環研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- | |
|--|
| <p>○国際誌への論文発表件数や国外口頭発表が増え、国内外への成果発信が高くなっていることを評価する。【年度】【見込み】</p> <p>○研究課題が多岐にわたるので、このプログラムだけですべてをカバーしようとするのではなく、成果が期待できる課題に集中した研究戦略が必要ではないでしょうか？資源循環研究全体の中で、各プロジェクトの具体的課題がどのように位置づけられるかを明示することが重要と考えます。【年度】【見込み】</p> <p>○海外の多くの国向けにも、モデルを提供されている事は評価できますが、実際に採用されて実現するめどは立っているのでしょうか。【見込み】</p> |
|--|

今後への期待など

- | |
|--|
| <p>○マイクロプラスチック問題に対する社会的関心が高まっています。当該問題に対して専門家として一般向けの見解を示していただくことを期待する。【年度】</p> <p>○メタン発酵の循環利用率の位置づけやエネルギー部分の勘定法の検討に期待する。【年度】</p> <p>○SDGs 実現にむけたロードマップの中でこの研究プロジェクトが貢献しようとしている課題を体系的に位置づけた上で、社会へのさらなる成果発信と社会実装への貢献を期待する。【見込み】</p> <p>○従来の延長線上での視点から距離を置き、俯瞰的な視点による研究の新たな展開を期待する。【見込み】</p> |
|--|

主要意見に対する国環研の考え方

- | |
|--|
| <p>① 研究課題が多岐にわたる点をご指摘のとおりですが、推進戦略に基づいて、必要性和強みを生かして研究課題を選択して4年間実施してきました。広範な研究全体の中での個別課題の位置づけは、より分かりやすく明示したいと存じます。</p> <p>② プラスチック問題は当初の研究課題ではありませんでしたが、PJ2などで可能な範囲で対応しており、本格的な展開は次期の予定です。一般向けの情報発信は、研究所の公開イベントや各種講演などで実施していますが、その多くはPGではなく基盤研究や一般的な広報活動と位置付けています。</p> <p>③ 海外向けの統合的廃棄物処理システム(モデル)提示について、多くは実現までの道のりの途上にありますが、SRF(固形ごみ燃料)の国際標準化や、分散型生活排水処理(浄化槽)技術の東南アジアへの展開におけるベトナム、ラオス等一部の国々で技術・維持管理システムの計画案への反映を進めています。</p> <p>④ 俯瞰的な視点による資源循環研究へのご期待は重く受け止めます。焼却処理中心の社会では循環利用率目標の達成は短期的に困難という現状も踏まえながら、メタン発酵の指標検討もあわせて長期的な転換方策の視点を含めます。なお、金属を中心とした資源利用の持続可能性はPJ1で検討しております。</p> <p>⑤ SDGsに向けたPGの貢献は2年目にも示しており、日本やアジアでそれぞれ社会的側面を重視しながら社会実装を目指しておりますが、改めて整理致します。</p> |
|--|